

(様式3)

自己評価結果票 (ユニット めくもり)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『ともに暮らす』この理念を基本に、ホーム利用者と職員及び広くは地域と共に暮らすことを掲げています。	地域活動(ふれあい喫茶・クリーン作戦など)地域活動への参加をして行きたいと考えています。現行は各選挙の投票へ参加やミニデイへの見学などを行なっている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げ、日々の暮らしに根付く様に配慮はしている。ただ、方針においては、十分な理解と把握がなされているかは確認できていない。	支援方針の徹底を目指し、日々の支援の中で職員個々への周知を行なって行きたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会にて公示は行なっているが、地域となるとなかなかその機会もなく、広報誌も検討しているが難題にぶつかっている。	日常生活の様子を含め、広報誌などにより広報を行ないたいが、リスクを回避することをまず優先的に行なって行きたい。
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の田畑で作業されている方へ声を掛けたり、お茶の差し入れをしたり、時には収穫野菜をいただいたりと、比較的気軽に交流が持っているといます。	まだまだ、地域の方々との接点を持てると思いますので、地域への参入機会を増やせればと思います。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体の特別養護老人ホームと共同により、地域へ開放された行事を催したり、秋祭りで地域の屋台が訪問してくれたり、交流の機会には努力している。	老人会・民生児童委員など、小規模ごとの組織と交流が持てるように、今後の検討をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	現状では特に取り組めていない。		地域福祉の拠点として、情報の発信源になればと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価を受けることで、日頃見落としがちな気付きと物事の捉え方の方向性と妥当性を見出す事が出来、より充実した支援に繋がると考える。		認知症高齢者の基本的支援のあり方を学び、日常支援の中に活かせればと考えます。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	会議にて助言を頂いた項目など、地域参入への足がかりにし、地域交流へつなげられればと考えます。		会議の定期開催及び、有識者・一般住民を巻き込んだ会議になればと考えます。
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	現状では特に取り組めていない。入居に当たっては相談窓口として相談はしているが。		日常的な相談及び制度についての確認窓口として今後は連携を図って行きたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	職員にまでは十分な研修などが行えていないが、後見人制度への取り組みについては、管理者として研修へ参加している。また、推進会議において、行政的な今後の取り組みを確認している。		研修で得た情報を職員研修などに活かし、スキル向上につなげて行きたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	認知症理解を深め、利用者の尊厳を認識し、日常支援の現状と職員からの支援状況を把握し、虐待防止に努めている。		一部職員の研修により認識に留まっているように感じる。全職員に周知されるように努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に契約書を元に十分な説明を行い、不明な点が無いかその都度確認している。また、契約遂行途中であっても、随時質問を受けられるよう窓口を設けている。</p>	<p>継続した対応と、納得いただける利用に心がけたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特別に機会を設けたはいないが、日常生活内で話し易い環境を作れるよう努力はしている。意向を確認された場合は、その都度職員で検討し、少しでも反映出来るように努めている。</p>	<p>まだまだ、利用者の意向が汲み取れる環境の整備が可能であると思っています。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時及び電話により家族への状況を伝えてはいるが、その他では、家族会にて個別で支援計画の意向確認をしている程度である。</p>	<p>定期的な家族への状況報告を位置づけて行きたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会・電話・面会時が中心ではあるが、その都度家族に意向の確認を行っている。また、苦情に関しても気軽に話して頂けるように、日頃から『こちらから問い掛ける』ことを基本にしている。</p>	<p>現状の窓口に留まらず、話し易い環境の整備を検討したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや職員会議などを中心に常に職員の意見が聞け、その意見をどのようにすれば反映出来るかを職員と共に考えている。</p>	<p>規模が小さくても、もっと多くの『話せる機会』を設けて行きたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じ、職員の勤務時間の調整を行ったり、人員の確保を実施している。</p>	<p>現状が継続出来るように勤めて行きたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	経営母体である特養と協議し、急激な複数者の移動は避け、少人数の移動に心掛けている。		利用者の精神状態への配慮に心掛け、今後も取り組んでいきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内研修は実施しているが充分とは言えず、段階に応じたスキルアップの出来る研修を計画する必要があると考える。		法人内研修に留まらず、職員会議などを利用し、内容の充実した研修会を行って行きたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	現状では行っていないが、推進会議などで提案し今後の課題となっている。		地域内の同業者と連絡会を持ち、互いに向上できる機会を持ちたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	保養所を設けたり、職員旅行を計画したりしている。また、年間を通じ職員面接を行い、現状の心身状況などの相談できる機会を設けている。		職員と対話する機会を継続的に持ち、心身状態の緩和に努めて行きたい。
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	自己の判断により研修への参加や、研修会の情報を提示するなど、各自が積極的に向上心を持てるよう努めている。また、実績を月毎に確認し、運営努力に繋がるようにしている。		管理者だけでなく、職員一人一人が意識し経営的立場で取り組めるよう、実績などの情報を職員に提示してはどうかと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時の事前面接にて出来る限り足を運び、直接会って話すように努めている。また、入居後も本人の不安の軽減に繋がるように、家族の面会の機会を設けてもらったり、電話で話す機会を設けたりしている。</p>	<p>直接面接を継続的に行い、知らない顔がある環境への利用より、知った顔のある環境への利用を心掛けたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族を含め、事前の説明などを充分に行い、その上でホームを見ていただき、納得と理解の下で利用頂けるように努めついる。</p>	<p>現行のスタイルを変える事無く、出来る限り『聞いて理解』『見て納得』いただける対応を行って行きたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>広く、福祉サービスを尺度に本人の状態及び家族に意向に合ったサービスの選択を提示するように心掛けている。</p>	<p>現行の取り組みを継続して行きたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験的に訪問を頂、他の利用者とお茶を飲んでいただいたり、お部屋を確認いただいたりと、出来る限り家族はもとより、本人に納得頂けるように配慮はしている。</p>	<p>現行の取り組みを継続して行きたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事など、職員が主体で行うのではなく、利用者には『味付け』や『切り方』などを聞くなどの立場に転じ、支援を行っている。</p>	<p>擬似家族である事を念頭に、共に暮らす空間作りに勤める。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者の状態に応じ、感情の不安を伴ったりする場合は、家族と共に解決に向け協力体制をとるよう勤めている。		状況に応じ、その都度家族と連携を保ち対応出来るように、今後も努める。
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常での支援を通じ、利用者が求める家族とのつながりの最適な観点を探り、その観点を家族に伝え面会や同行外出などにつながるように配慮している		出来る限り家族を巻きこんだ支援を今後も心掛けて行きたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用以前に通われていた医療・理髪店などの利用を基本的に支援している。また、寺院や河川、公園など個々の記憶に残る場所への外出にも努めている。		さらには、日常的に買い物に行かれていたお店なども生活の中で情報収集し、その場への同行にもつなげて行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格を把握し、出来る限り『共に支えあえる』居場所作りに努めている。		利用者の人間関係から、まだまだ十分とはいえない状況にあると考え、もっと補え遭える人間関係への発展に努めたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後のフォローや退去時の相談に応じる姿勢など、出来る限りの努力はしている。		退去後の生活状況などの追跡までは出来ておらず、今後はこの様な視点でも支援できればと考えます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人への選択肢の提示や意向の傾聴など、本人本位の支援に努めている。</p>	<p>もっと多くの『個人の声』が聞き取れるような職員の意識向上に努めていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族からの情報提供に限らず、本人・知人・ケアマネなど、少しでも多くの情報収集に努めている。</p>	<p>情報の収集はなされているが、集約が不十分であり、今後の課題でもある。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人一人への声掛けを基本に、動作・思考などを観察し把握するように努めている。</p>	<p>職員が個人として把握はするが、情報の共有がなされておらず、もっと情報の共有が出来るよう組織立てていきたい。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者に意向を確認し、家族の希望を含み、ケアマネ及び計画作成担当者、ケース担当者が協議しプランを作成している。</p>	<p>さらに、情報の収集に努めていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>身体的・精神的変化に応じ、その変化が長期間に渡り継続されるとみなされた場合は、計画の見直しを行なえるように努めている。</p>	<p>一時的な状態の変化にも対応が出来るようなプラン作成が出来るように努めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌への記載、また連絡帳への記載により、情報が共有できるようには努めているが、支援に直接反映されているとは言えない。		その都度発生する諸問題や気づきなどの周知による一貫性のある支援が大切であると考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟と言えるかどうかであるが、出来る限りの自由な行動と意向の傾聴とその内容の支援に努めている。		その他の福祉サービスをまだまだ有効には活用出来ていない。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアとの連携により訪問を受けたり、学校教育の一環としての小・中学生の訪問がある。		クラブ活動的な共に時間をすごしてもらえる様なボランティアの調整に努めたい。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、地域のその他の福祉サービスを検討する事も視野には入れている。		現状、サービスを活用された経緯は無いが、努めて行きたいと考える。
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	十分な連携は図れておらず、地域包括からの意見や指導を取り入れられるよう、今後の課題とする。		平常からの地域包括との繋がりを持てるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	基本はかかりつけ医に受診・相談を行い、その指示の元で予後の対応を検討している。		現状の継続と、さらに医師との連携を密に行きたい。
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	母体の主治医である精神科医及び近隣にある精神科への協力を得ている。		限られた精神科医への相談に留まっており、その他の専門医への窓口拡大に努めたい。
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	非常勤ではあるが、看護師の配置をしており、その都度相談できる体制をとっている。		この体制の継続に努めて行きたい。
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	病状の把握と予後の対応など、医師との連携により許せる限りの早期退院に努めている。		現行の取り組みを継続して行きたい。
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	本人・家族の意向に出来る限り応える事が出来るように、充分ではないが話し合いをする機会を設けている。		ホームとしての指針をマニュアル化出来ればと考えています。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	チームとしての取り組みは充分では無いと考える。		利用者の状態を把握し、適切な支援の方向性を見出して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現状及び過去の経緯を含む情報の提示には努めている。		あまり事例が無いので考えのみになるが、ホームでの生活の状況を提示し、その人らしく別の生活空間で暮らせる様に支援して行きたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は基本的に目に付く所に置かず、また、声掛けも人格を持って行うように心掛けている。		日常会話での個人的情報のやり取りがあるように思う。プライバシーへの配慮に今一度努める必要があると考える。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る限り選択肢を提示し、自己の判断の中で物事が決定できるように配慮している。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人に応じた生活のペースで、日常支援を行っている。		十分な支援がなされているとはまだまだ言えず、努力が必要と考える。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類の選択により、本人の好みやその時の気分で着たい服が着れ、お化粧の出来る対応に心掛けている。		外出時など、事前の促しにより本人に出掛けると言う意識を持ってもらい、おしゃれが出来る機会にして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の残存機能に応じた調理などへの関わりを持っていただいております、協働で食事作り出来るように配慮している。		残される機能を充分発揮していただける場となるように、されなる努力が必要と思われる。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その都度本人に聞きながら対応している。また、タバコ・お酒も身体的要因がない限りは制限をしていない。		個人の嗜好としては把握はされているが集約されていない。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用い、本人の排泄周期を確認しながら対応すると共に、排泄前のサインを見逃さないように務めている。		排泄の失敗や排泄場所以外での排泄などがまれに見られるので、チェック表をもう少し工夫し、活用して行きたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は入浴時間は自由であるが、利用者の状態によっては職員の勤務状況によって若干調整をしている。		夜間浴も基本とし対応するが、支援が常時必要な方の自由入浴なども検討して行きたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間の自由化と必要に応じた個室入り口の施錠など、個人レベルに応じた対応をしている。		施錠を行う方への訪室などへの配慮を、安眠妨げにならないように検討して行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事・洗濯・清掃など、その内容によって役割的に活動をして頂いているが、偏りが生じているようにも思う。		『補い・助け合える』相互関係の確立に努めて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差はあるが、小額で家族の同意がいただける場合は個人で金銭を管理していただいている。買い物や新聞代などは、そこから支払って頂けるようにも配慮している。		個人の財布を小額でも管理していただき、金銭に関する理解や買い物をする意識を大切にしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り本人の意向を傾聴し、外出支援を行っている。		どの程度までの外出支援を行うのかを、事業所としてアウトラインを定めて行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人の意向を確認し、他の利用者と共にその場へ出掛ける機会を設けている。		平等性と言う意味では、主張される方とされない方の誤差が生じているのではと感じている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けていただいたり、申し出に応じ手紙を書いていただいたりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	工夫は充分なされていないが、家族・知人・友人・近隣住民は比較的気軽に訪問いただけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する施設内研修及び事例をもとに検討し、拘束ゼロの支援を心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には施錠は一切せず、夜間の防犯上及び居室での就寝時の必要者の施錠以外は行っていない。		
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間のお部屋への訪室や日中の行動など、本人の精神的負担にならないように配慮しながら対応している。		屋外へ散策に出られる利用者に対し、べったり同行ではなく、やや離れた位置からの見守りが出来るように周知して行きたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤嚥などの危険性のある洗剤などは、手の届かない場所や利用者が往来しない倉庫内にて管理している。		安心が危険を招く可能性があるため、今後の課題とし鍵のかかる場所への管理を検討する。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個室であるというリスクは大きいですが、利用者の行動の把握と周期を理解し、注意をしている。		常に危機感をもって支援に当たるように、平素からの心構えを周知したい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期には行えていないが、止血法などの初歩的対処は習得を促している。		救急時のマニュアルを作成し、対応に備えたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を利用者と共に実施をしたりしているが、日常的な周知には至っていない。		日常的に避難口の周知や消火器の位置などを認識できるように働きかけを行えるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その都度にはなるが、考えられる危険性に関して家族と電話・文章・面会時などに話し合っている。		家族会など、広域の場での検討会を含め、定期的な意見交換会を開催し、家族と共に対策を検討して行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックや様子を伺うことで、平常との違いを把握できるように努めている。		変化と捕らえる根拠の整理と対応策をまとめ、今後の対応手順を整理して行きたい。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの服薬リストと処方箋及び医師からの指示内容をケースに記載し、その内容を基本とし変化の基準としている。		全職員になかなか周知されず、ケースだけでなくその他の周知要領などを検討して行きたい。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を出来るだけ多く摂取していただけるような献立と、十分な水分摂取に心掛けている。		強度の便秘などに関しては、主治医などに相談し、下剤などの処方も頂いている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがいと起床時のブラッシングが基本とされ、義歯については夜間を中心に洗浄剤にて浸け置き洗浄をしている。		磨きの腰のチェックなどが充分行われておらず、口腔内の健康診断も検討したい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一般論になるが、平均的な栄養所要量の摂取を基本に、週単位で分類別の食物チェックを行っている。		水分のチェックが充分出来ておらず、食事も1日のバランスまでは把握されていない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種の実施や消毒など、感染対策には充分注意をしている。		大まかなマニュアルはあるが、さらに具体的な内容を盛り込み、より充実した衛生管理に努めて行きたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限の厳守や二枚貝などを避けるなど、栄養士などの指示・助言をもとに実施している。また、各週での栄養士の食材などのチェックをしてもらい、職員への意識付けを行っている。		各職員の認識力の向上に努め、より安全な食事の提供に努めて行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	バリアフリーはもとより、玄関周辺に危険物を置かず、安全への配慮を心掛けている。また、玄関周辺に花を植えたりガーデンセットを置いたりし、気軽に立ち寄れる工夫をしている。		玄関のガラスがプライベートシートにより中が見えにくくなっており、玄関である事が分かり辛いため、ハード的な改善も検討したい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を飾ったり、少し明かりを抑えたりと、ゆったり過ごせてもらえる空間の演出には努めている。また、清潔感を保つ為、汚れたら拭くことを基本に努めています。		洋風である空間を、いかに季節感を感じてもらえる空間として改善できるか、今後の課題とする。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライベートゾーンの設置を行っており、比較的思い思いの小グループで日中は過ごされている。		プライベートゾーンの空間に限りがある為、もう少し小さなスペースを増やして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に持ち込みの制限はせず、使い慣れた家具や仏具に至るまで置いていただけるように配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者が自己管理出来ない場合や必要に応じて空調の調整を行い、天候の良い日には喚起するように心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全バリアフリーにより、段差のない生活の確保に努め、部屋からリビングへの距離も短く、自立した生活への配慮を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなどの明示や部屋の目印など、その人の状態に応じて対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	周辺散策が出来るようにスロープが設置されていたり、玄関付近での夕涼みなど、屋内に閉じこもりにならないように工夫をし生活して頂いている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (ユニット ぬくもり)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない <input type="checkbox"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

支援の基本は『共に共存する』ことであると考えます。助け合い、補い合える関係作りに配慮しながら支援を行っています。また、周囲に自然が多い事から、天候が許す限り屋外でお茶を飲んだり話をしたりと、ゆとりの持てる生活の実現に向け取り組んでいます。尚、職員の配置及び総合的な支援の実現に向け、ユニットごとの職員の配置をせず、2ユニットを職員全体で勤務しています。

(様式3)

自己評価結果票 (ユニット めぐみ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『ともに暮らす』この理念を基本に、ホーム利用者と職員及び広くは地域と共に暮らすことを掲げています。	地域活動(ふれあい喫茶・クリーン作戦など)地域活動への参加をして行きたいと考えています。現行は各選挙の投票へ参加やミニデイへの見学などを行なっている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げ、日々の暮らしに根付く様に配慮はしている。ただ、方針においては、十分な理解と把握がなされているかは確認できていない。	支援方針の徹底を目指し、日々の支援の中で職員個々への周知を行なって行きたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会にて公示は行なっているが、地域となるとなかなかその機会もなく、広報誌も検討しているが難題にぶつかっている。	日常生活の様子を含め、広報誌などにより広報を行ないたいが、リスクを回避することをまず優先的に行なって行きたい。
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の田畑で作業されている方へ声を掛けたり、お茶の差し入れをしたり、時には収穫野菜をいただいたり、比較的気軽に交流が持っていると思っています。	まだまだ、地域の方々との接点を持てると考えますので、地域への参入機会を増やせればと考えます。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体の特別養護老人ホームと共同により、地域へ開放された行事を催したり、秋祭りで地域の屋台が訪問してくれたり、交流の機会には努力している。	老人会・民生児童委員など、小規模ごとの組織と交流が持てるように、今後の検討をしたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	現状では特に取り組めていない。		地域福祉の拠点として、情報の発信源になればと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価を受けることで、日頃見落としがちな気付きと物事の捉え方の方向性と妥当性を見出す事が出来、より充実した支援に繋がると考える。		認知症高齢者の基本的支援のあり方を学び、日常支援の中に活かせればと考えます。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	会議にて助言を頂いた項目など、地域参入への足がかりにし、地域交流へつなげられればと考えます。		会議の定期開催及び、有識者・一般住民を巻き込んだ会議になればと考えます。
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	現状では特に取り組めていない。入居に当たっては相談窓口として相談はしているが。		日常的な相談及び制度についての確認窓口として今後は連携を図って行きたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	職員にまでは十分な研修などが行えていないが、後見人制度への取り組みについては、管理者として研修へ参加している。また、推進会議において、行政的な今後の取り組みを確認している。		研修で得た情報を職員研修などに活かし、スキル向上につなげて行きたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	認知症理解を深め、利用者の尊厳を認識し、日常支援の現状と職員からの支援状況を把握し、虐待防止に努めている。		一部職員の研修により認識に留まっているように感じる。全職員に周知されるように努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>継続した対応と、納得いただける利用に心がけたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>まだまだ、利用者の意向が汲み取れる環境の整備が可能であると思っています。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>定期的な家族への状況報告を位置づけて行きたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>現状の窓口に留まらず、話し易い環境の整備を検討したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>規模が小さくても、もっと多くの『話せる機会』を設けて行きたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>現状が継続出来るように勤めて行きたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>経営母体である特養と協議し、急激な複数者の移動は避け、少人数の移動に心掛けている。</p>		<p>利用者の精神状態への配慮に心掛け、今後も取り組んでいきたい。</p>
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修は実施しているが充分とは言えず、段階に応じたスキルアップの出来る研修を計画する必要があると考える。</p>		<p>法人内研修に留まらず、職員会議などを利用し、内容の充実した研修会を行って行きたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現状では行えていないが、推進会議などで提案し今後の課題となっている。</p>		<p>地域内の同業者と連絡会を持ち、互いに向上できる機会を持ちたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>保養所を設けたり、職員旅行を計画したりしている。また、年間を通じ職員面接を行い、現状の心身状況などの相談できる機会を設けている。</p>		<p>職員と対話する機会を継続的に持ち、心身状態の緩和に努めて行きたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自己の判断により研修への参加や、研修会の情報を提示するなど、各自が積極的に向上心を持てるよう努めている。また、実績を月毎に確認し、運営努力に繋がるようにしている。</p>		<p>管理者だけでなく、職員一人一人が意識し経営的立場で取り組めるよう、実績などの情報を職員に提示してはどうかと考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時の事前面接にて出来る限り足を運び、直接会って話すように努めている。また、入居後も本人の不安の軽減に繋がるように、家族の面会の機会を設けてもらったり、電話で話す機会を設けたりしている。</p>	<p>直接面接を継続的に行い、知らない顔がある環境への利用より、知った顔のある環境への利用を心掛けたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族を含め、事前の説明などを充分に行い、その上でホームを見ていただき、納得と理解の下で利用頂けるように努めついる。</p>	<p>現行のスタイルを変える事無く、出来る限り『聞いて理解』『見て納得』いただける対応を行って行きたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>広く、福祉サービスを尺度に本人の状態及び家族に意向に合ったサービスの選択を提示するように心掛けている。</p>	<p>現行の取り組みを継続して行きたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験的に訪問を頂、他の利用者とお茶を飲んでいただいたり、お部屋を確認いただいたりと、出来る限り家族はもとより、本人に納得頂けるように配慮はしている。</p>	<p>現行の取り組みを継続して行きたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事など、職員が主体で行うのではなく、利用者に『味付け』や『切り方』などを聞くなどの立場に転じ、支援を行っている。</p>	<p>擬似家族である事を念頭に、共に暮らす空間作りに勤める。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者の状態に応じ、感情の不安を伴ったりする場合は、家族と共に解決に向け協力体制をとるよう勤めている。		状況に応じ、その都度家族と連携を保ち対応出来るように、今後も努める。
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常での支援を通じ、利用者が求める家族とのつながりの最適な観点を探り、その観点を家族に伝え面会や同行外出などにつながるように配慮している		出来る限り家族を巻きこんだ支援を今後も心掛けて行きたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用以前に通われていた医療・理髪店などの利用を基本的に支援している。また、寺院や河川、公園など個々の記憶に残る場所への外出にも努めている。		さらには、日常的に買い物に行かれていたお店なども生活の中で情報収集し、その場への同行にもつなげて行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格を把握し、出来る限り『共に支えあえる』居場所作りに努めている。		利用者の人間関係から、まだまだ十分とはいえない状況にあると考え、もっと補え遭える人間関係への発展に努めたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後のフォローや退去時の相談に応じる姿勢など、出来る限りの努力はしている。		退去後の生活状況などの追跡までは出来ておらず、今後はこの様な視点でも支援できればと考えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人への選択肢の提示や意向の傾聴など、本人本位の支援に努めている。</p>	<p>もっと多くの『個人の声』が聞き取れるような職員の意識向上に努めていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族からの情報提供に限らず、本人・知人・ケアマネなど、少しでも多くの情報収集に努めている。</p>	<p>情報の収集はなされているが、集約が不十分であり、今後の課題でもある。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人一人への声掛けを基本に、動作・思考などを観察し把握するように努めている。</p>	<p>職員が個人として把握はするが、情報の共有がなされておらず、もっと情報の共有が出来るよう組織立てていきたい。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者に意向を確認し、家族の希望を含み、ケアマネ及び計画作成担当者、ケース担当者が協議しプランを作成している。</p>	<p>さらに、情報の収集に努めていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>身体的・精神的変化に応じ、その変化が長期間に渡り継続されるとみなされた場合は、計画の見直しを行なえるように努めている。</p>	<p>一時的な状態の変化にも対応が出来るようなプラン作成が出来るように努めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌への記載、また連絡帳への記載により、情報が共有できるようには努めているが、支援に直接反映されているとは言えない。		その都度発生する諸問題や気づきなどの周知による一貫性のある支援が大切であると考えます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟と言えるかどうかであるが、出来る限りの自由な行動と意向の傾聴とその内容の支援に努めている。		その他の福祉サービスをまだまだ有効には活用出来ていない。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアとの連携により訪問を受けたり、学校教育の一環としての小・中学生の訪問がある。		クラブ活動的な共に時間をすごしてもらえる様なボランティアの調整に努めたい。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、地域のその他の福祉サービスを検討する事も視野には入れている。		現状、サービスを活用された経緯は無いが、努めて行きたいと考える。
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	十分な連携は図れておらず、地域包括からの意見や指導を取り入れられるよう、今後の課題とする。		平常からの地域包括との繋がりを持てるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	基本はかかりつけ医に受診・相談を行い、その指示の元で予後の対応を検討している。		現状の継続と、さらに医師との連携を密に行きたい。
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	母体の主治医である精神科医及び近隣にある精神科への協力を得ている。		限られた精神科医への相談に留まっており、その他の専門医への窓口拡大に努めたい。
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	非常勤ではあるが、看護師の配置をしており、その都度相談できる体制をとっている。		この体制の継続に努めて行きたい。
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	病状の把握と予後の対応など、医師との連携により許せる限りの早期退院に努めている。		現行の取り組みを継続して行きたい。
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	本人・家族の意向に出来る限り応える事が出来るように、充分ではないが話し合いをする機会を設けている。		ホームとしての指針をマニュアル化出来ればと考えています。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	チームとしての取り組みは充分では無いと考える。		利用者の状態を把握し、適切な支援の方向性を見出して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	現状及び過去の経緯を含む情報の提示には努めている。		あまり事例が無いので考えのみになるが、ホームでの生活の状況を提示し、その人らしく別の生活空間で暮らせる様に支援して行きたい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1.その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	記録は基本的に目に付く所に置かず、また、声掛けも人格を持って行うように心掛けている。		日常会話での個人的情報のやり取りがあるように思う。プライバシーへの配慮に今一度努める必要があると考える。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	出来る限り選択肢を提示し、自己の判断の中で物事が決定できるように配慮している。		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	個人に応じた生活のペースで、日常支援を行っている。		十分な支援がなされているとはまだまだ言えず、努力が必要と考える。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	衣類の選択により、本人の好みやその時の気分で着たい服が着れ、お化粧の出来る対応に心掛けている。		外出時など、事前の促しにより本人に出掛けると言う意識を持ってもらい、おしゃれが出来る機会にして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の残存機能に応じた調理などへの関わりを持っていただいております。協働で食事作り出来るように配慮している。		残される機能を充分発揮していただける場となるように、されなる努力が必要と思われる。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その都度本人に聞きながら対応している。また、タバコ・お酒も身体的要因がない限りは制限をしていない。		個人の嗜好としては把握はされているが集約されていない。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用い、本人の排泄周期を確認しながら対応すると共に、排泄前のサインを見逃さないように務めている。		排泄の失敗や排泄場所以外での排泄などがまれに見られるので、チェック表をもう少し工夫し、活用して行きたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は入浴時間は自由であるが、利用者の状態によっては職員の勤務状況によって若干調整をしている。		夜間浴も基本として対応するが、支援が常時必要な方の自由入浴なども検討して行きたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間の自由化と必要に応じた個室入り口の施錠など、個人レベルに応じた対応をしている。		施錠を行う方への訪室などへの配慮を、安眠妨げにならないように検討して行きたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事・洗濯・清掃など、その内容によって役割的に活動をして頂いているが、偏りが生じているようにも思う。		『補い・助け合える』相互関係の確立に努めて行きたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差はあるが、小額で家族の同意がいただける場合は個人で金銭を管理していただいている。買い物や新聞代などは、そこから支払って頂けるようにも配慮している。		個人の財布を小額でも管理していただき、金銭に関する理解や買い物をする意識を大切にしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り本人の意向を傾聴し、外出支援を行っている。		どの程度までの外出支援を行うのかを、事業所としてアウトラインを定めて行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人の意向を確認し、他の利用者と共にその場へ出掛ける機会を設けている。		平等性と言う意味では、主張される方とされない方の誤差が生じているのではと感じている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けていただいたり、申し出に応じ手紙を書いていただいたりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	工夫は充分なされていないが、家族・知人・友人・近隣住民は比較的気軽に訪問いただけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する施設内研修及び事例をもとに検討し、拘束ゼロの支援を心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には施錠は一切せず、夜間の防犯上及び居 室での就寝時の必要者の施錠以外は行っていな い。		
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している	夜間のお部屋への訪室や日中の行動など、本人の 精神的負担にならないように配慮しながら対応し ている。		屋外へ散策に出られる利用者に対し、べったり同 行ではなく、やや離れた位置からの見守りが出来 るように周知して行きたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	誤嚥などの危険性のある洗剤などは、手の届かない 場所や利用者が往来しない倉庫内にて管理して いる。		安心が危険を招く可能性があるため、今後の課題 とし鍵のかかる場所への管理を検討する。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	個室であると言うリスクは大きいですが、利用者の行 動の把握と周期を理解し、注意をしている。		常に危機感をもって支援に当たるように、平素か らの心構えを周知したい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	定期には行えていないが、止血法などの初歩的対 処は習得を促している。		救急時のマニュアルを作成し、対応に備えたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日頃より地域の人々の協力を得られる よう働きかけている	避難訓練を利用者と共に実施をしたりしている が、日常的な周知には至っていない。		日常的に避難口の周知や消火器の位置などを認識 できるような働きかけを行えるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その都度にはなるが、考えられる危険性に関して家族と電話・文章・面会時などに話し合っている。		家族会など、広域の場での検討会を含め、定期的な意見交換会を開催し、家族と共に対策を検討して行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックや様子を伺うことで、平常との違いを把握できるように努めている。		変化と捕らえる根拠の整理と対応策をまとめ、今後の対応手順を整理して行きたい。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの服薬リストと処方箋及び医師からの指示内容をケースに記載し、その内容を基本とし変化の基準としている。		全職員になかなか周知されず、ケースだけでなくその他の周知要領などを検討して行きたい。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を出来るだけ多く摂取していただけるような献立と、十分な水分摂取に心掛けている。		強度の便秘などに関しては、主治医などに相談し、下剤などの処方も頂いている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがいと起床時のブラッシングが基本とされ、義歯については夜間を中心に洗浄剤にて浸け置き洗浄をしている。		磨きの腰のチェックなどが充分行われておらず、口腔内の健康診断も検討したい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一般論になるが、平均的な栄養所要量の摂取を基本に、週単位で分類別の食物チェックを行っている。		水分のチェックが充分出来ておらず、食事も1日のバランスまでは把握されていない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種の実施や消毒など、感染対策には充分注意をしている。		大まかなマニュアルはあるが、さらに具体的な内容を盛り込み、より充実した衛生管理に努めて行きたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限の厳守や二枚貝などを避けるなど、栄養士などの指示・助言をもとに実施している。また、各週での栄養士の食材などのチェックをしてもらい、職員への意識付けを行っている。		各職員の認識力の向上に努め、より安全な食事の提供に努めて行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	バリアフリーはもとより、玄関周辺に危険物を置かず、安全への配慮を心掛けている。また、玄関周辺に花を植えたりガーデンセットを置いたりし、気軽に立ち寄れる工夫をしている。		玄関のガラスがプライベートシートにより中が見えにくくなっており、玄関である事が分かり辛い為、ハード的な改善も検討したい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を飾ったり、少し明かりを抑えたりと、ゆったり過ごせてもらえる空間の演出には努めている。また、清潔感を保つ為、汚れたら拭くことを基本に努めています。		洋風である空間を、いかに季節感を感じてもらえる空間として改善できるか、今後の課題とする。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライベートゾーンの設置を行っており、比較的思い思いの小グループで日中は過ごされている。		プライベートゾーンの空間に限りがある為、もう少し小さなスペースを増やして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に持ち込みの制限はせず、使い慣れた家具や仏具に至るまで置いていただけるように配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者が自己管理出来ない場合や必要に応じて空調の調整を行い、天候の良い日には喚起するように心掛けている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全バリアフリーにより、段差のない生活の確保に努め、部屋からリビングへの距離も短く、自立した生活への配慮を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなどの明示や部屋の目印など、その人の状態に応じて対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	周辺散策が出来るようにスロープが設置されていたり、玄関付近での夕涼みなど、屋内に閉じこもりにならないように工夫をし生活して頂いている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (ユニット めぐみ)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない <input type="checkbox"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

支援の基本は『共に共存する』ことであると考えます。助け合い、補い合える関係作りに配慮しながら支援を行っています。また、周囲に自然が多い事から、天候が許す限り屋外でお茶を飲んだり話をしたりと、ゆとりの持てる生活の実現に向け取り組んでいます。尚、職員の配置及び総合的な支援の実現に向け、ユニットごとの職員の配置をせず、2ユニットを職員全体で勤務しています。